

日本経済新聞

尿でがんリスク判定、追加検査の負担大 住民がん検診が最善



尿1滴で多くの臓器のがんを早期に発見できる、といった宣伝をよく見かけますが、有効性は確立していません。しばらく前に知人から届いたメールを、少し長いですがなるべく原文のまま引用します。

『私たち夫婦と私の両親の計4人でがんの“リスク検査”を受けました。翌月に検査結果が届き、両親がD判定（がんの可能性が非常に高い）と診断されました。検査前は、家族全員が陰性で「これからも健康に気を付けようね」という結果を漠然と期待していました。そのため、両親がこのような結果になるとは思わず、家族全員が大きな衝撃を受けました。

1956年（昭和31年）生まれの父と52年（昭和27年）生まれの母ですので、仮にがんだった場合は進行が速い可能性があると考え、早急に対応しようと病院をあたりました。ところが「症状がないため、保険適用外で検査を行う必要がある」「全てのがんを網羅する検査メニューは存在しない」などと言われました。他の2つの病院でも同じことを言われました。

途方に暮れていたところ、画像診断専門のクリニックを見つけ、連絡しました。窓口の方は非常に親切で、尿によるリスク検査についても熟知しており、丁寧に対応を説明していただきました。（同様の問い合わせが多いのでしょう:筆者注）

その結果、両親合わせて50万円の費用がかかる検査（陽電子放射断層撮影装置=PET=検査と思われる:筆者注）を受けることを決意しました。

検査の結果、幸いにも両親ともがんは見つかりませんでした。その瞬間は家族全員が安堵しましたが、今後毎年50万円の検査を受けるべきか、という新たな課題に直面しており、不安は消えません』（引用終わり）

一部の生命保険会社がこの種のリスク検査を推奨してきたこともあり、同様の相談を受けることは少なくありません。全額自己負担のPET検査の費用はばかになりませんが、引用した事例と同様の「高リスク判定→PET陰性」のパターンが多いことは、学会も公表しています。

ただ、PET検査も完全ではないため、話は複雑です。別の複数の女性からは、乳がん手術の直前にあえてリスク検査を受けた結果、陰性だったという話も聞きました。

政府は科学的根拠に基づき、胃、肺、大腸、乳房、子宮頸（けい）部に対する5つのがん検診を推奨しています。「健康増進法」を根拠に市区町村が税金を投入しており、個人の負担額はわずかです。これらの住民検診を受けることが最善です。

ただ、海外では血液によるがん検診の有効性が証明され、一部は国の認可を得ています。別に論じたいと思います。

2025年11月19日